

ぶんを つくって みましょう(1年)

●指導目標

挿絵と結びつけて場面の様子を話し合い、お話の大体を理解する。

『けむりの きしゃ』を読む

○助詞「は」「が」の使い方や、句読点の使い方を理解する。

『ぶんを つくって みましょう』〔言語〕(本時)

○促音と長音の読み方と書き方を理解する。『なつ、なっぱ』〔言語〕

●教材について

『ぶんを つくって みましょう』は、読みを中心とする単元『けむりの きしゃ』に続く、「言語事項」を扱う小教材である。

この小教材では、主語と述語の関係に注意しながら、助詞「は」「が」や句読点を使って、基本的な文型の文を作ることをねらいとしている。

実際の方法としては、四コマの挿絵を手がかりに『うさぎと かめ』の話をさせたり、『けむりの きしゃ』を読み直させたりしながら、基本文型を意識して文を書く力の定着を図ることになる。ちなみに、ここで意識させるのは、『けむりの きしゃ』に提示されている、「……が、……ました。」「……は、……を……ました。」という基本文型である。

また、本教材は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習要素でもある。

ここでの学習はわずか1時間であるが、6月最後の単元『しらせたいことを かきましよう』を学習する大前提となる。

●学習指導計画(全11時間)

展開・時		学 習 活 動	評価と方法
一 次	第1・2時	○四つの場面の挿絵を見て、情景や登場人物についてのあらましをつかむ。	関 ：題名に関心をもち、積極的に想像しようとしている。(観察・話し合い) 話聞 ：話のあらましをつかみ、自分の考えたことを発表している。(観察・ノート・発表)
	第3・4時	○(一)の場面を読み、流れ星とおじいさんが出会った様子を読み取る。	関 ：挿絵にそって文章を読もうとしている。(観察・ノート・音読) 言 ：助詞や長音の入った言葉を正しく読んでいる。(観察・音読) 読 ：挿絵を手がかりにして、話の内容をとらえている。(音読・ノート・発表)
	第5時	○(二)の場面を読み、おじいさんが流れ星にしてあげた行動の優しさを読み取る。	関 ：挿絵にそって文章を読もうとしている。(観察・ノート・音読) 言 ：助詞や長音、促音の入った言葉を正しく読んでいる。(観察・音読) 読 ：「 」の文に気をつけて読んでいる。(観察・音読) 読 ：挿絵を手がかりにして、話の内容をとらえている。(音読・ノート・発表)

	第 6 時	○ (三) の場面を読み, おじいさんが流れ星のために一生懸命な様子を読み取る。	関: 挿絵にそって文章を読もうとしている。 (観察・ノート・音読) 言: 助詞や長音, 促音の入った言葉をほぼ正しく読んでいる。(観察・音読) 読: 挿絵を手がかりにして, 話の内容をとらえている。(音読・ノート・発表)
	第 7 ・ 8 時	○ (四) の場面を読み, 流れ星がおじいさんにお礼を言っている様子を読み取る。 ○ 登場人物に手紙を書く。	関: 挿絵にそって文章を読もうとしている。 (観察・ノート・音読) 言: 助詞や長音, 促音, 会話文の入った言葉を正しく読んでいる。(観察・音読) 読: 挿絵を手がかりにして, 話の内容をとらえている。(音読・ノート・発表) 書: 話の流れの順序をおさえて, 自分の考えを簡単に書いている。(手紙)
二 次	第 9 時 (本時)	○ 『けむりの きしゃ』や『うさぎと かめ』の挿絵や文を見ながら, 文を作る。	関: 挿絵と文を結びつけて理解しようとしている。(観察) 言: 四角に適切な言葉を入れ, 助詞「は」「が」の使い方を理解している。 (観察・ワークシート) 言: 四角に適切に言葉を入れ, 句読点の打ち方を理解している。(観察・ワークシート)
三 次	第 10 時	○ 促音の表記の仕方を理解し, 促音の入った言葉を集める。	言: 促音を含む語と含まない語の違いを理解している。(観察・ノート・ワークシート) 関: 促音の入った言葉を集めようとしている。 (観察) 言: 促音の入った言葉を集めるとともに, ほぼ正しく読み書きしている。 (発表・ノート・ワークシート・)
	第 11 時	○ 長音の表記の仕方を理解し, 長音の入った言葉を集める。	言: 長音を含む語を, 正しく読んでいる。 (観察) 関: 長音の入った言葉を集めようとしている。 (観察) 言: 長音を含む語の正しい読み書きに慣れるとともに, 語彙を拡充している。 (観察・ノート・ワークシート)

●本時の展開（本時 9 / 1 1）

目 標

- ・『うさぎと かめ』の挿絵や『けむりの きしゃ』の文を見ながら，主語と述語の関係を意識した文を作らせるなかで，助詞「は」「が」や句読点の使い方を理解・定着させる。

●展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価・支援
1 『うさぎと かめ』の挿絵を見ながら，「何が」「……する」という文型の文を作る。 ○最初の絵 ・<u>うさぎ</u>が <u>はねる</u>。 ・<u>かめ</u>が <u>あるく</u>。 ○二つ目の絵 ・うさぎが <u>ねむる</u>。 <u>ひとやすみする</u>。 ・かめが <u>おいこす</u>。 <u>がんばる</u>。 ○三つ目の絵 ・うさぎが <u>おいかける</u>。 <u>あわてる</u>。 ・かめが <u>すすむ</u>。 <u>がんばる</u>。 ○四つ目の絵 ・うさぎが <u>まける</u>。 <u>かなしむ</u>。 ・かめが <u>かつ</u>。 <u>よろこぶ</u>。 2 『けむりの きしゃ』を音読して振り返り，このお話をもとに，「何が」「……ました。」「何は」「何を」「……ました。」という文型の文を作る。 ながればしが，おちて きました。 <u>おじいさん</u>が <u>ひろいました</u>。	最初の絵を例にして，「……（何）が，……（どう）する」という，簡潔な主述の関係（＝基本文型）を意識づける。 「うさぎが <u> </u>。かめが <u> </u>。」の文型で，二つ目，三つ目，四つ目の絵について文を作らせる。 四コマの絵を拡大したものと基本文型は予め黒板に掲示しておく。 四角に入る言葉を子どもに考えさせる。できるだけ複数発表させるようにしたい。 発表した言葉を板書し，みんなで音読する。 ワークシートに書かせる。 （最初の絵から四つ目の絵までを対応させた記入欄を工夫する） 音読の後，「ながればしが，おちてきて，それからどうしましたか。」と問う。 「……が，……ました。」の文型を予め黒板に掲示しておく。 お話の展開にそって，文型をおさえさせる。 ワークシートに書かせる。 （教科書の文例に対応させる）	関：挿絵と文を結びつけて理解しようとしている。（観察） 言：四角に適切な言葉を入れ，主語と述語の関係を理解している。（観察・ワークシート） 言：四角に適切な言葉を入れ，主語と述語の関係や，助詞「は」「が」の使い方を理解している。（観察・ワークシート） 支：「それからどうしましたか」という，話の順序をおさえた問い方によって，広がりすぎや混乱を防ぐ。

おじいさんは、まきを もや しました。 <u>おじいさん</u>は、<u>ほし</u>を <u>かえしてあげました</u>。	次に、「おじいさんがまきをもやして、それからどうしましたか。」と問う。 同様に「……は、……を……ました。」の文型を黒板に掲示しておく。 ワークシートに書かせる。 (教科書の文例に対応させる)	
3 範例を音読したり視写したりして、句読点の打ち方を理解する。 かめは、うさぎをおいぬきました。 。ぶんの おわりには、まる(。)をつける。	まず目を使ってワークシートに文を視写させる。 (教科書の文例に対応させる) 文の最初は一まず空ける(一字下げる)。 てん(読点)、まる(句点)の位置と書き方をおさえる。	言：四角(ます目)に適切に言葉を入れ、句読点の打ち方を理解している。 (観察・ワークシート) 支：句読点を書くときには、十字ますを活用して、書き方をおさえさせる。
4 この時間に出てきた文をみんなで音読する。	板書やワークシートに書いた文を大きな声で音読させる。	読：大きな声で音読している。(観察)

●一年生の言葉の指導で特に留意したいこと

【10のポイント】

ノートやワークシートには大きな字で丁寧に書かせる。

鉛筆は持ち方を指導し、2Bなどの濃い(やわらかい)ものを使わせる。

十字ますを活用して、句読点の正しい打ち方を理解させる。

読み書きはもちろん、話したり聞いたりするときも、主語と述語を意識させる。

読み書きの指導では、大きな声でくり返し音読させることを大切にする。その結果、

- ・教科書に出てきた基本文型(文例)に慣れる。
- ・自分が書いた文の間違いや書き足りないところに気づく。
- ・言葉に親しんだり興味・関心がもてたりする。
- ・句読点の大切さに気づく。

日常的に言葉を集めたり、それを使って文を作らせたりする機会を多く設ける。

絵(挿絵)を見ながら、文(お話)を作らせたり想像させたりする。

自分がしたことや見たこと、思ったことを「わたし(ぼく)は、……を……ました。」という文型を使って、はっきり言えるようにする。

書く機会をできるだけ多く作り、書いたことを認めてほめたり発表させたりする。

「せんせい あのね。」のように、知らせる相手を決めて話したり書いたりさせる。